

22. 5. 22

優しさはぐくむ 赤ちゃん登校日

おむつ替えなど挑戦

西伯小

赤ちゃんに接して人との向き合い方や自分と他者を大切にすること、人持ちを学ぶ「赤ちゃん登校日」の取り組みが18日、南部町法勝寺の西伯小学校(三谷和明校長、431人)で行われた。児童たちは、言葉で意思疎通が図れない

赤ちゃんを理解しようと寄り添うことで、人とかかわる大切さや難しさを実感した。

鳥取県教委から受託したNPO法人「未来」(倉吉市宮川町)が主催。赤ちゃん登校日を提唱する鳥取大学医学部の高塚人志准教授



赤ちゃんのおむつを替える児童たち

と、米子市や南部町の1歳未満の赤ちゃんを母親10組が来校し、約40人の児童が授業を受けた。

高塚准教授は「人に

優しくすることは自分が優しくしてもらうことにつながる。自分の

優しさを赤ちゃんに一生懸命届けてあげよう」と自分の気持ちを他者に伝える大切さを説いた。

赤ちゃんと児童のふれあいでは、児童たちはおむつ替えやだっこをして、自分と他者との関係性を感じた。6年の阿代田拓末君(11)は「けがをさせないように、赤ちゃんの気持ちを考えながら触れ合えた」と話していた。

(井川広志)